



目標13:気候変動に具体的な対策を

目標14:海の豊かさを守ろう

14 海の豊かさを守ろう



13 気候変動に具体的な対策を



最近、日本では、様々な魚が年々やせ細っているとか?。『毎日新聞3/21』に気になる記事が目にとまったので紹介します。東京大学大気海洋研究所のチームが「日本近海の魚類は 1980 年代と 2010 年代に魚が小型化した」と今年2月に国際学術誌で発表。80年代の小型化は餌の動物プランクトンを魚同士が競合したことが原因が、10年代は80年代と比べて海の表層と下層との水温差が大きくなったことが原因。水温差が大きいと、海水は垂直方向に混ざりにくく、下層に沈む動物の死骸や糞によって供給される窒素等の栄養塩が上昇せず、栄養塩で育つ植物プランクトンが減少、それを餌とする動物プランクトンも減る。温暖化で魚の餌が不十分ゆえ体重が減少。小型化の別の原因として、プラスチックごみの粉砕「マイクロプラスチック(MP)」による海洋汚染。動物プランクトンがMPを口にし、本来の餌の植物プランクトンが摂取できず、強制的にダイエットさせられている状態。で、それを餌とする魚もやせ細る。この悪循環の連鎖。MPは一度環境中に出ると、回収するのが非常に難しい。プラスチックごみ流出を防ぐ以外にこの悪循環は止めようがない!!!、今年2月の世界の平均海面水温は観測史上最も高い 21.06 度。温室化ガス濃度が上昇する限り、この記録は更新されると予測されている。さらにコロナウイルス爆発感染により、使い捨てマスクを全世界の人々が着用、マスクゴミが海に流出し、ウミガメの糞からマスクの驚愕ニュースを目にしたことも。

現在進行中の温暖化もプラスチック汚染も、原因を作ったのは全て人間。MP は永遠に分解されず年月をかけて海をさまよひ、海に暮らす生物に対し悪影響を与え、生態系のバランスを破壊する。私達、地球人がこの問題を真剣に考えなければいけない時期にきているのではないかと、この記事を読んですごく考えさせられました。

☆海の中から地球を考える☆

著者はプロダイバー武本匡弘氏。40年以上の国内外の海でダイバー経験があり、彼が肌で感じた海中の移り変わりを記録した本です。ダイバーの目を通して、温暖化によるサンゴ礁の白化現象やマイクロプラスチックの海洋汚染、その原因は何か。それが地球にどのような影響を及ぼしているのかを易しい言葉で綴ってあります。この本は新刊本コーナーに置いてあります。是非、手に取って読んでみてください。



魚コーナーから見える海洋汚染

私は、夕食の買い出しに、日頃からスーパーの魚コーナーや肉コーナーによく行きます。最近、鮮魚がやけに高く、小型化しているのに気づきました。昨秋のサンマが小さくやせ細り、なのに高値にはびっくりしました。毎日新聞の記事を読み、その理由がわかりました。海洋汚染が、魚の小型化や価格高騰化に繋がっているとは……

今、海洋汚染を阻止しないと価格高騰以前に、魚類、全ての海洋生物が死に絶えるのではないと思いました。文明生活を謳歌する人間が犯した罪＝環境破壊のツケは、結局巡り巡って人間に返ってくるのだなと思いました。まさしく、これは因果応報そのもの。天に唾はけば我に返る!!!

文責:副部長 M2-2 N. Y